

会 議 録

作成日 令和5年11月22日(水)

日	令和5年11月20日(月)	時間	10:00～12:00	場所	市役所 201.202 会議室
件名	(議題) 第3次糸魚川市生涯学習推進計画の策定について(案)				
出席者	【出席委員】14名(敬称略) 水澤 哲、井崎 由紀子、清水 博、村井 康司、渡邊 秀幸、和泉 裕一、長 砂男、松本 香織、矢島 好美、渡邊 文恵、西澤 隆、園田 和子 【助言者】 辻村 貴洋 准教授、関原 和人 副参事 【事務局】 (生涯学習課) 山本課長、伊藤課長補佐、須澤係長、七澤主査、伊藤主査、岩崎主査、小田嶋主査、大西主任主事、齊藤主事				
	傍聴者定員		5人	傍聴者数	0人

会議要旨

進行：事務局

1 開 会 (10:00)

2 協 議

(1) 第3次糸魚川市生涯学習推進計画の策定について(案)

事務局説明(計画素案の全体部分について説明)

(質疑応答および意見交換)

・P5～6

委 員：ニーズが多様化しているという声があるが、それに対して多様な学習を提供しなければいけないか、それを企画側が提供できるのかという問題があると思う。また、②の多様な価値観を発見してもらうとあるが、それに対してどういう具体策があるかというのが、見えてこないと満足してもらえないのではないかと。

事 務 局：こちらのページは総論的に書かせていただいているので、具体的な部分について書いていない。後半の記述でもそこまで具体的には書けていないが、実施計画のなかではそういった部分は検討していきたい。

委 員：実施計画に書いていくとのことだが、多様なニーズというのは何があるかっていうのを把握する方法やどうやって把握するかということも考える必要がある。

助 言 者：学校教育の中で多様化するニーズに対応した教育として個別最適な学習と協働的な学習というものがある。これは多様化する教育に教師が対応していくというものという考えと協働的に学びをしていくというものであり、相互関連しながらあの子はこういうところがよい、この子はここをもっと頑張らなければいけないといった個別の部分も入れて一体的に教育していく。いままでは教師の先導的な教育だったが、今はこれからの多様化するニーズの中で社会にどう対応していけばうまくいくといったことは教師にも分からなくなった。そういった社会に子どもを送り出すためにはお互いの協働的な学びやお互いの発見をどんどんステップアップさせる必要がある。多様化するニーズに固執するのではなく、協働的な学びの中でどういうところを伸ばされていくのかということを手助けしていくという

考え方が生涯学習にも必要だと思う。

委員:そういった説明で②のつながりは市民が他者の価値観を知って一緒に動くようなかたちになっていると思う。こちら側が一方的に用意したものをやってもらうというものはもうすでに時代錯誤ではないかと思う。

助言者:いかに不満をもって自分がやりたいのはこれじゃないということを気付いてもらうことが入口として必要である。予算化されないからできないということではなく、自分たちがやりたいことはこういうものだというのをこの計画に残していく必要がある。自分で自己実現していく③のところに学習者自身が可能性を拓いていければと思っている。

・P7～9

委員:ソフト面における課題の②は事業を市民に周知させる手段がないというような踏み込みが良いと思う。以前資料として市のLINEの登録者を出すようお願いして、そちらからも分かるが、広報は人がたくさんいる世帯やおじいちゃん、おばあちゃんしか見ないと思う。今の市の広報ではあれは配ってもらえるのにこれはダメなのかというのがあり、コスト的なこともあるかもしれないが、むしろ広報するのを絞っているように感じる。

事務局:検討させていただく。

・P10～14

委員:P14 ページはP6 に合わせて下から上に向かう矢印が良いと思う。

事務局:ほかの委員の皆さんも同意見であればそうさせていただきたい。(賛成多数)

委員:ステップモデルの0の部分の項目に対応するサポートが記載されていて良いと思う。

助言者:皆さんの意見をお聞きしたいが、P14の活動拠点に学校や園を入れるかどうか。生涯学習であれば入るが、社会教育であれば学校教育と分けるので皆さんがどう感じるかどうか教えてほしい。

事務局:教育委員会で話した中で、生涯学習の計画であり、地域学校協働活動などの学校を拠点とした活動もあるので、皆さんが良ければ入れたいと考えている。(賛成多数)

委員:キターレもこの中に入れてもらいたい。固い雰囲気施設の施設だけでなく、いろいろな雰囲気の施設が記載されていると良い。

委員:そこに美山なども加えられればより良いと思う。

助言者:全国には活動拠点が無い活動といったものもあり、そういったいろいろなものがあるということで「など」の部分に入れさせてもらえればと思う。

委員:前回の会議で家庭教育支援のグループワークで図書館がらみは読書活動だけではなく、レファレンスや地域情報の収集もあるよねというような話をさせてもらっていたが、ブックスタートではかえって細かくなっているように感じがどうなのか。

事務局:あくまで生涯学習推進する中で家庭教育支援として事業化している部分として掲載させていただいている。図書館全体のあり方という部分は別で話し合う予定の部分であるので、こちらの計画には記載していない。

委員:具体的な話ではなく抽象的な話を計画に入れるべきなので、お題目として入れるべきと感じている。これであれば前回の読書活動の方が良かったと思う。

事務局:子ども読書活動でも言及させていただいている部分があるので、グループワークで詳しく説明させていただければと思う。

委員:前回記載のあった成人教育活動の中の地域づくり活動といった部分の記載がなくなったの

はなぜなのか。糸魚川市は今、自治会活動なども多いので入っていたほうが良いと思う。

事務局：地域活動という部分については上の基本理念の部分に記載があるので、全体に関わるという部分を活動拠点に変えさせていただいた。

委員：上にあるからということではなく書いてあった方が分かりやすいと思う。

委員：地域づくりの部分の特に力を入れているのは成人教育の範囲の方だと思うため、そちらに入れさせていただければと思う。

②グループ協議（P16～23 までの各分野について）

【家庭教育支援分野】

事務局：「◇目的」について、「家庭における教育力の向上」という目的が伝わりやすいよう表記を変更した。「【輝く】」について、環境整備に特化する表記になっていたため、変更した。P14「読書」を「ブックスタート」とした理由は、家庭教育支援の中から広く知られている取組であるためである。図書館に関する具体的な内容は策定中の「子ども読書活動推進計画」に記載していて、「生涯学習推進計画」と連携しながら推進する計画である。

委員：現状図書館が貸本屋以外の機能がない。委託業者の資質の問題でなく、市のグリップの問題である。主要施策を「ブックスタート」に矮小化するのではなく、「図書館を良くする」ということを入れたい。小学生・中学生から受けたレファレンスの数などの具体的な指標を開発してほしい。貸出数など、貸本にしか指標がないとそれしかしない。

事務局：それは家庭教育の枠を超えるということか。

委員：「ブックスタート」は具体的な事業のイメージがある。他はもっと大きいくくりで書かれている。「読書活動」や「本とのふれあい」などの記載はどうか。

委員：具体性等については、他の表記と並ぶよう検討する。「図書館を良くする」ということと、「読み聞かせなどの家庭教育支援の実施」は、二つに分けて記載するべきか。むしろ「図書館を良くする」という部分は活動拠点などに記載するべきか。

委員：活動拠点を膨らませるのはあり。色々と絡ませるように書きたい。「ブックスタート」はそれしか絡まないから、それならば「読書活動」の方がいい。「子どもたちが図書館や学校図書館を利用することで色々なことに遭遇できる。そのために市民図書館が学校図書館をサポートする」というところまで一言でうまく入れられたら。「子どもの読書をめぐる環境の改善」などざっくりとした記載でも良いのでは。

事務局：検討する。

委員：P14 のイメージ図について。活動拠点はまちなかにもあるという話があったが、糸魚川市全体と見たときに様々な施設が点在している。そういう視点で見たときに、この図だと小さい活動拠点に様々な取組がからむように見えるが、実際には活動拠点はもっと大きくて、その中に4つの分野が入っているという方イメージしやすいのではないかと。また、もっと多くの拠点を記載しても良いのではないかと。

事務局：記載の工夫を検討する。

助言者：計画全体を見ると、学習者に対する支援や取組は第9章以降に書かれており、活動拠点となる施設についてはP8の「ハード面」やP9の「③～拠点整備」などに書かれているが、その間の「学習を提供する側」への支援や取組について記載がない。敢えて記載するならP8「ソフト面」やP9「施策の方向性」に「実践者への支援」等として入れるかどうか。

事務局：検討する。

(以下具体的な変更案)

P15

○【つながり】 「・図書館などにおいて・・・」

・図書館やキターレなどにおいて人と出会える情報拠点としての環境を提供し、安心して過ごせる居場所を提供する。

・市民図書館が学校図書館をサポートすることで遠くに出かけなくても自己学習ができる環境を提供する。

P14

○「ブックスタート」→「本とのふれあい」「読書活動」

○活動拠点の枠を広げ、キターレやF FMなど様々な施設を具体的に記載。

【青少年活動分野】

委員：地域活動でいうと市振では子どもの顔が見えなくなった。地区の若い人が活動しているMIFという団体があって、獅子舞や太鼓などで月6回くらい行ってくれており、そこで初めて地域の子どもの顔を見ることができた。子どもたちと接することで元気も生まれるためそういった活動が必要だなと感じた。

委員：実際に地域で青少年教育をするとなった時の母体づくりではだれが主体になって何をするのだろうというのが明確になってこないとその動きが起きてこないと思う。地域づくりに参加するのは成人している人たちがほとんどなので、そういうところに子供も入っていけるような働きかけが必要だと思う。そういうものがないとどこで何をやればいいんだとなってしまふ。子どもに関わる団体はあるがそこに青少年教育という考えで行っている人はなかなかいないと思う。

事務局：大人の人たちが青少年教育に関わってもらうための仕組みづくりがいるということだと思う。学ぶのなかで大人の人たちがこういう目的で子どもたちと関わってほしいというのを伝えていく必要がある。

委員：子どもにいきなり自分で考えて動けと言っても難しいので、そういった考えでつなげていけると良い。

委員：やっぱりお金がないと活動ができないということもあると思う。生涯学習に関わっている団体は補助金などで活動しているのか。自分でも活動したいということはいくつかあってもなかなか実現できない。

事務局：自治会などの活動は公民館からの依頼でお金をもらって活動してもらっているところもある。活動したことが実際にあるようであれば公民館などで講座も行っているのだから、そういったところに相談してもらうのも手だと思う。

委員：青少年教育という言葉だと青少年に教育するぞという感じがする。それよりも青少年が活動していくところを確保してあげることが最初は大変だと思う。

事務局：青少年の活動については体験活動をさせてくれる人たちの活動のしやすさ、どうやって進めようかということも考えていく必要がある。活動資金の問題も解決できるような仕組みも検討していく必要がある。

委員：人口減少の部分の解消のためにもこの前見学させてもらったキャリアフェスティバルは良

かったと思う。

事務局:糸魚川で働く人を増やしていくためにもキャリアフェスティバルのようなイベントは必要だと思う。

【成人教育分野】

委員:最初に目的を読んだときに一文が長く感じた。地域づくり活動を推進して、自主的な活動を促進するという部分を分かりやすくした方が良いと思う。

事務局:皆さんから見ていただいて長いと感じる文章は、読みにくいものだと思うので、参考にさせていただく。

委員:「学ぶ、つながり、輝く」は、「学ぶ、つながる、輝く」の方が体裁として良いのではないかと思う。

事務局:検討させていただく。

委員:高齢者の学び直しや各世代に合わせた事業はすでにやっているということであれば、興味や関心が持てないということだと思うので、興味ある事につながるといったものにした方がよい。

委員:つながりの中に地域活動があるが、学校や地域だけでなく企業も入ってきて良いと思う。そのためそういったつながりが成人教育の中でできるよう市の取組として考えていく必要がある。

事務局:既に市の事業で企業とつながっているものもあるので、新たな視点として入れていきたい。

委員:学ぶのところが文章で多様な学習機会と書いてあるが、「多様な」が生涯学習講座やオンライン配信などの学びの手法の部分の両方にかかっているようにした方が良いと思う。また、「多様な」の意味もすべてのニーズに応えるというものではなく、今必要とされているものを行うという意味の方が良いと思う。2つ目の高齢者の学び直し~というのが、高齢者に特化しているように見える。

委員:ここに関しては「気づかない」、「時間がない」は知ってはいるが参加しないというものだと思うが、興味がないは何にも触れていないという部分なので、ニーズを引っ張り出すという部分をどのようにしていくかが必要である。

事務局:気づくと興味がある情報はどんどん入ってくるが、興味がないと目の前の情報が流れていても見てもらえない。

委員:やはり高齢者などは引きこもりがちになってしまうといったことが起きていると思う。

事務局:とりあえず今は広報では興味をもってもらえるように頑張っているところである。

委員:世代間で情報を見る媒体は違うので、若い人たちに対して新聞でPRしてもなかなか見てもらえない。

委員:市役所の広報はホームページを見てもらいたいとよく言われるが、ホームページをわざわざ見に行く人は少ないと思う。自分で調べたいと思う状況にならないとなかなか調べない。市公式LINEについても安心メールのような部分は安全の為にみる人がいると思うが、それ以外のお知らせの部分は通知が多くなってしまうので、なかなか見てもらえないと思う。

委員:登録者のデータから見ても子育て情報などの部分くらいが興味を持ってもらえているところだと思う。また、つながりの部分で多世代交流をいきなり求めるのは難しく、同世代の

交流が深まると多世代交流ができてくると思っているので、その文言についてはこういった考えで良いと思う。

委員：読み聞かせボランティアの人材不足というような話はあまり知られていないと思う。おしらせばんには、こういう活動しましたという部分だけが見えてしまっている。

委員：ボランティアや求人など人を募集するときには、これに参加すると何が得られる、こんなメリットがあるというような相手側のニーズを把握した情報発信が必要だと思う。同世代の交流が生まれてくれば、広報や活動をしている中でそれを見てくれた人が、あの活動はこういう感じらしいよとか、あの人はこれに合うと思うと考えてくれて、周りの人に声をかけてくれるので、同世代の交流は意味があると思う。

事務局：おしらせばんなどでは情報発信できる文章の量が限られてしまっている。

委員：そういったところは内部で調整して少しでも情報が届けられるようにしてほしい。

事務局：今は興味を持ってくれた人には少しでも見てもらえるように、二次元コードでフォームを見てもらい、そこで詳しい説明ができるようにしている。

委員：世代間交流については同じ趣味の人同士であれば、割と簡単にできると思う。手話サークルでも40～60代くらいは友達でなくても一緒に活動している。また、学びについては座学について言及しているのか。

事務局：座学だけではなく、体験なども含んでいる。

【生涯スポーツ・健康づくり分野】

事務局：前回の会議でお話いただいた意見をまとめ、教育委員会でも見てもらってすこし変更させてもらっている。目的の部分はいきいき都市宣言とも重なっていて良いと思っている。

委員：いきいき都市宣言について、以前は学校中心のスポーツが行われていたため、行政が言ってもなかなか馴染まなかったと思う。今後は地域でのスポーツも重要になってくるので、この文言はちょうど良いと思う。

委員：能生の駅伝も行っていて、コースについてなど、いろいろな課題があるが警察等と相談を行い、うまく進めている。

委員：そういった取り組みで参加者の地域が広がっていているのは良いことだと思う。

事務局：対象についてはほかの部分と合わせて「だれでも」を「全世代」に変更した。

助言者：すこし行政用語かもしれないが良いと思う。

事務局：健康づくりなども含めて多世代型のものになっていき、青少年の教育なども含めて行っていけると良いと思う。

助言者：総合型地域スポーツクラブについても言及しているので、こういったところもきちんと進めていってもらえればと思う。上越市や妙高市では合併前の単位で作っているなので、そういった部分の検討も進めていく必要がある。ただし、そういった枠組みになると、他地域では何をやっているかわからなくなるような部分もでてきてしまう。

(具体的文言については変更なし)

【各分野の発表への意見】

委員：家庭教育の輝くのところで「学んだことを家庭で～」の「家庭」を「」に変更するという部分は家庭教育支援なのでそのまま家庭でよいのではないか。

事務局：例えば料理教室にでて、その内容を家庭で実践してもらうのはもちろん、地域の活動の場でもう一回やってみようかということで実践してもよいのではないかという考えで入れた。

委員：場所は地域だが、親子で一緒に活動したり、皆さんに教えたりすることなら良いと思うが、たとえば地域の場で親だけがいて家庭教育というのは枠組みから外れてしまう気がする。

委員：イメージとしてはどこか特別なところで学んできたことを日常に入れられるかということで考えれば家庭だけではなくてどこでも良いと思っている。しかし、せっかく家庭教育支援で学んだことをそこだけで終わらせてしまうのはもったいないので、他の分野ともつながるような部分を出したいと思った。

委員：意図は分かるが、家庭教育支援という分野での目的としては家庭教育の支援が行えれば良いので、その観点がなくても良いのではないかと思う。

委員：目的の部分に親と子どもの自尊心を育むことや周りの人とのかかわりを通じた社会性の習得等の支援を目指すため、最終的には社会で生きる子どもを家庭で育むということだと思っていて、親も含めて関わっていくという考え方で良いのかなと思っている。ただ全体で話すべきかどうか、個別に記載するべきかは事務局の方で検討してもらえればと思う。

(助言者からの総括)

助言者：会議を重ねるごとに分かりやすくシンプルになってきていると思う。この計画をどう受け取るかということを考えてまとめてもらえば良い。図としてもわかりやすくまとめてもらっている。学び・つながり・輝きと4分野の関わりを意識してもらえばより良い計画になると考えている。

3 その他

次回会議日程等について事務局説明

閉 会(12:00)